2009年度学術フロンティア推進事業による研究成果の概要

The Outline of Research by the "Academic Frontier" Project in the 2009 Fiscal Year

立命館大学歴史都市防災研究センター　副センター長
Vice-Director, Research Center for Disaster Mitigation
of Urban Cultural Heritage, Ritsumeikan University
吉越　昭久
Secretary-General of the Project, Akihisa YOSHIKOSHI
学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を
自然災害から防御するための学理の構築」幹事長

学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための学理の構築」（代表：土岐憲三）は、今年度で最終年度を終了した。今回の報告は、今年度の内容を中心としながらも、5年間のまとめとなるように記載したい。

1．研究の体系

このプロジェクトは、後述するような3つのサブプロジェクトから成るが、プロジェクト全体としては学内で本研究に関係する以下に示すようなプロジェクトや研究センターと連携をとりながら研究を進めてきた。

そのプロジェクトは、グローバル COE プログラムの「歴史都市を守る『文化遺産防災学』推進拠点」、「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」（それ以前の21世紀 COE プログラムとして、「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」「京都アートエンターテインメント創成研究」）がある。また科学研究費補助金基盤研究（A）「歴史都市における人為的災害からの防御による安全の構築」とも相互に連携を進めて研究を実施してきた。

また、連携を進めている学内の研究センターとしては、本推進事業で立ち上げた「歴史都市防災研究センター」は、この研究の主体をなす研究センターであるが、同じ衣笠キャンパスの「アート・リサーチセンター」やびわこ・くさつキャンパスの「防災システム研究センター」もある。このように、学内的には文化遺産の防災にかかわる研究を進めるために、研究のプロジェクト、研究組織・施設と連携をとりながら研究を進めてきたことが大きな特徴である。

一方、学外では文化遺産や防災に関係する国内外の大学・研究機関、行政組織などと研究協力を進めてきたことも特徴の一つである。

教育面では、この研究を進める次世代の人材を育成するために、大学院については理工学研究科、文学研究科、政策科学研究科など文理融合型の大学院制度をつくり、2008 年度から本格的に動き始めている。そこでは学部を卒業した通常の大学院生の他に、文化遺産防災の分野で実際に仕事を行っている社会人にも門戸を広げた。また、国際的な人材の育成にもつとめ、アジア地域を中心に、毎年文化遺産と防災の分野の専門家を対象に研修を行ってきており、本年度で4回目を実施した。

このように、学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための学理の構築」プロジェクトが単独で研究を進めるだけではなく、学内外・国内外の研究組織と連携をとりながら、研究を進めてきたことに大きな特徴がある。

2. 研究プロジェクト

本学術フロンティア推進事業では、メンバーを①防災まち（地域）づくりプロジェクト、②文化遺産・芸術作品防災プロジェクト、③防災空間情報プロジェクトの 3 つのサブプロジェクトに分けて、各サブプロジェクトのテーマに沿う形で個人研究・共同研究を進めている。また、メンバーが中心になって、学内外、国内外の研究者と研究会、共同研究を進めてきた。2009 年度の成果については、本報告書に概要と巻末に業績一覧を掲載してあるので、個々の内容をここで詳しく触れることは省略しておきたい。

3. 今年度実施した企画・事業（研究プロジェクト以外）

本年度は最終年度にあたるために、通常の年度に行う企画・事業の他に、以下のような最終的なシンポジウムや行事の企画を行った。

(1)安心安全マップコンテスト

このコンテストは、地域の小学生に地域の安全安心への関心を深めてもらうことを目的にして企画されたもので、本年度で 3 回目の企画になる。前回の昨年度と異なるところは、対象を京都府内の小学校から日本全国の小学校にまで拡大させたことである。昨年度同様に、小学生と保護者が一緒に、地域の安全安心について調べ、その結果を 1 枚の地図に描いてもらった。応募は、広報が充分でなかったこともあってそう多くなかったことが課題となった。この企画は、本プロジェクトの終了後も、本学の歴史都市防災研究センターの企画として継続していく予定である。

応募してきた地図の中には力作もあって、単なる紙地図だけでなく様々な工夫をこらした作品も現れた。応募された作品を学内外の専門家に審査してもらい、優秀者を表彰した。また全ての応募作品を、歴史都市防災研究センターの展示ルームに一定期間展示した。この展示期間には、通常休館となる土曜日にも開館して地域の方々や、小学生などにもみてもらえるような対応をした。

(2)歴史都市研究センター展示ルームにおける展示

歴史都市防災研究センターでは、「常設展」、前述の安全安心マップの展示の他、いくつかの企画展（国土交通省国土地理院協賛「地図を通して見る関東大震災」、「メディアに見る大地震の記憶」、「第 1 回文化遺産防災アイデアコンペティション入賞作品展」などを展示した。また、現在、学術フロンティア推進事業の研究メンバー全員による研究結果のパネル展示を行っている。いずれの展示も、マスコミに取りあげられたこともあって、多くの入館者を集めるようになった。

(3)情報発信の整備(ホームページの充実)

昨年度に続き、歴史都市防災研究センターのホームページを充実させることを行った。これまでの研究の蓄積を可能な限り公開するという方針でのぞんでいる。また、センター所蔵の資料類のデータベース化が進んだので、できる限り早い時期に公開して、利用に供したいと考えている。

(4)シンポジウム・研究発表会・展示説明会の開催

12 月 13 日(日)午後、第 5 回文化遺産防災シンポジウム「文化遺産―伝統を災害から守る―」を開催した。内容的には、(財)奈良屋記念杉本家保存会事務局長の杉本節子氏から「京町家『杉本家住宅』の保存活動について」、(株)老松代表取締役社長の太田達氏から「京都花街の形成と災害」、(株)NHK エンタープライズエグゼクティブプロデューサーの大井徳三氏から「文化財保護とマスメディア」、(財)祇園祭山鉾連合会副理事長の吉田孝次郎氏から「山鉾と天明の大火。町衆の知恵」と題する 4 件の発表があった。会場には、研究者や行政関係者、市民、学生など多くの参加があり、活発な質疑が行われた。このシンポジウムには、上記の関連するプロジェクトなどの後援を得た。

なお、同日の午前中に学術フロンティア推進事業の研究メンバーによる研究発表会があり、サブプロジェクトごとに 3 つの会場で多くの聴衆を集めて開催された。

シンポジウム終了後、歴史都市防災研究センターにおいて学術フロンティア推進事業の研究メンバーが作成した研究結果のパネルの説明会が開催され、シンポジウムの参加者は熱心に説明に聞き入っていた。この企画が、本報告書とともに、5 年間の最後を締めくくる事業となった。

(5)学外視察の実施

2 月 26 日(金)に、三重県津市一身田の専修寺とその寺内町を見学し、防災設備などの点検をして、寺院、寺内町の住民などとの意見を交換した。この企画は、このテーマの研究を実施するには、可能な限り現地視察をする必要があると考え、毎年実施しているものである。学術フロンティア推進事業終了後も、何らかの形でこの企画は継続したいと考えている。

(6)外部との研究協力・共同研究

前述のように、学外の大学・研究機関、行政組織、国外の大学・研究機関、行政組織とは、これまで協力関係を築いてきたので、それを最大限に利用して、これからも研究を進めたい。

4. 今後の研究計画

本年度は、学術フロンティア推進事業の最終年になった。このため、通常の年度の研究とともに研究のまとめと情報発信に関する計画をたてた。研究のまとめに関しては、各メンバーがこれまでの研究を総合した上で、とりわけ文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための研究を進め、学理の構築を行った。

この結果については、前述のように12月13日の研究発表会、シンポジウムで公開するとともに、報告書、歴史都市防災研究センターホームページなどを通じても公表をしていきたい。さらに、成果をより多くの目に触れるように、出版物の刊行も進めていきたい。

文化遺産の防災にかかわる研究は、本学術フロンティア推進事業の 5 年間で完結するものではない。本学では、前述のようにこのテーマに関する研究環境を整え、研究基盤を作ってきた訳であるから、今後とも様々な学内外・国内外の各組織と協力関係を維持しながらこのテーマに精力的に取り組んでいかねばならないと考えている。

文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業の一つである学術フロンティア推進事業にはこの5年間にわたり大変お世話になり、厚く御礼を申し上げる次第である。